

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立川之石高等学校

学校番号 36

| 評 価 実 施 日 | | 令和4年2月25日（金） | |
|-----------|-----------|-----------------|-----|
| 委 員 | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 |
| | 村 井 泰 之 | 地域代表 | |
| | 新 家 千 鶴 子 | 保護者代表 農業クラブ会長 | |
| | 行 天 雅 史 | 保護者代表 P T A 副会長 | |
| | 國 安 泰 次 | 学校評議員 川之石地区公民館長 | |
| | 井 上 純 一 郎 | 八幡浜市立保内中学校 教頭 | |
| | 徳 田 球 貴 | 伊方町立伊方中学校 教頭 | |

| 評 価 ・ 提 言 等 | 提言等に対する改善方策等 |
|--|--|
| <p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合発表会は今後新型コロナの感染症の指定区分が季節性インフルエンザと同等になれば外部の人間も参加させて頂くのを希望します。 <p>(2) 教科指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習についての自己評価が低いところが気になりました。 <p>(3) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学時などにおける自転車の危険性について出張プレゼンテーションを行っていますので、良ければ声をかけてください。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームでの仲間を固定化させないグループ活動は素晴らしい。将来の可能性を広げる意味で、普段からなるべくいろいろな人と接することを心がけてほしい。 <p>(5) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次生の4月から早い時期に進路指導を始めたいと思います。早い時期から進路について意識させることで選択肢が広がります。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の要望を踏まえ、今年度は発表時間の短縮、マスクの着用、密を避けるために座席を開けるなどの感染予防措置を取った計画を立てた。しかしながら、新型コロナの状況が悪化したため、校内開催という形になった。次年度以降も、状況に合わせて柔軟な対応をしたい。 ・classiへの入力状況は良くなったものの、学習時間は十分とは言えない数値である。課題の出し方の工夫や家庭との協力体制の構築を研究したい。 ・時機を見て出前講座に適切な状況になればお願いすることがあるかと思いません。よろしくお願いします。 ・積極的に誰とでもコミュニケーションを取ることを心がける生徒の育成に、引き続き努めたい。 ・1年次生の新学期は、学校の活動に合わせた基本的な生活習慣を確立することを優先します。その中でどのように進路指導をしていくか今後研究していきたいと考えており、来年度は、例年5月に実施していた1年次生対象の進路オリエンテーション（全体指導）を年度当初に実施し、進路についての意識を早期に持たせたい。 |

(6) 人権・同和教育

・スクールライフアドバイザーという、生徒が自己の不安について相談できる専門家がいるのを周知徹底してほしい。

・「保健だより」や「教育相談室だより」を通じて今後も生徒や保護者に周知し、相談しやすい環境作りに努めていきたい。

(7) 情報・図書・研修

・アナログ読書だけにこだわるのではなくデジタル読書も取り入れれば、読書率も上がるのではないかと。
・生徒が望む「情報」「図書」「研修」について、その時の社会情勢に合わせて生徒からアンケートを通じて検討してはどうでしょうか。
・学校図書館を最大に生かす方を今後の課題にしてはどうでしょうか。

・読書のための電子書籍端末使用の可能性について探していきたい。
・生徒からの希望図書のアンケートは取っている。更に広い意味で、生徒から情報・図書についての要望を聞く機会を設けたい。
・授業で学校図書館を活用することを進めていきたい。

2 評価の説明・公表について

なし

3 学校運営全般への要望・提言

・ホームページやリモートワークを通じて、生徒たちの明るく元気な活動の様子を積極的に発信してほしい。
・PTA活動がなかったので、新型コロナの状況でもできる通学路のクリーン活動（ゴミや落ち葉拾い）を行ってはどうか。
・コロナ感染防止のために様々な弊害が出てきていますが、反面、こういう状況だったから、深めることもあったのではないのでしょうか。

・今後もホームページなどの媒体を通じて本校の活動の情報発信を続けていきたい。
・新型コロナの状況に左右されない内容を検討し、来年度は活動に取り組みたい。
・ICT技術の活用については各教職員はもとより生徒のレベルアップを図ることができた。